

---

## 工芸専攻

陶領域

ガラス領域

金属領域

---

## Ceramic, Glass, Metal Works Course

Ceramic

Glass

Metal

---

# 安藤 優

ANDO, Yu

## 狛犬・獅子像の分析と造形

Analysis and modeling of guardian dogs

私は今日まで作品制作の題材として「狛犬」や「獅子像」といった獣状の像を取り扱ってきた。狛犬などで知られる獅子像というのは、世界各地の歴史や文化によって様々な姿や様式が存在し、非常に多くの要素が内包されその形が成っている。獅子像とは、それぞれの時代において人間が重要な思いを託した対象なのだ。そして作られた像そのものに、精神的に引き付けられる力が生まれ、そこに造作物

として魅力が生まれているものだと考える。そのことが、私の制作動機であると同時に制作の「対象」である。あらゆる地域と時代に作られた獅子像の歴史や、人が託した役割やその風貌といった概念を「表象・イメージ」として捉え、造形物として再表現するというのが私の制作だ。それは既存様式の模倣ではなく、自身にとってのコマイヌ(憧れや畏れを抱く対象)を唯一の像として表すことだ。



象獣像Ⅰ / 象獣像Ⅱ  
Statue of symbolic beastⅠ / Statue of symbolic beastⅡ  
陶 / Ceramics / 60 × 47 × 35 cm / 75 × 42 × 40 cm



## 佐藤 百合奈

SATO, Yurina

### 陶による、動物のイメージを使った曲線表現

Representing animals through curves in ceramics



春の足音 / Signs of Spring  
半磁土、顔料 / Ceramics, pigments  
29 × 24 × 20 cm

個々の動物が持っている特徴に魅力を感じている。姿形だけではなく、色や保護色となる動物の体の模様も面白い。動物や植物を描く時に、様々な線が現れる。

動物そのものの動きや毛並み、表面の流れ、筋肉や骨格を追いかけて描く線、あたりとして取る線。その描いた曲線を組み合わせていくことで、交差する曲線が織り成す豊かな模様になる。

さらにその模様を立体的に表現する為に、複数の柔らかな曲線どうしを不規則に組み合わせた、有機的な葉っぱの

ようなひらひらとした薄いピースにして組み合わせて、1つの動物にし、動物の動きや、毛並み、ふわとした毛の強弱、ぬくもりを作品に表した。

『雪の中野原で辺りを見渡すふわふわとしたうさぎ。春の足音を感じる野原で待つふわふわとしたうさぎ』流れるような面と曲線が組み合わさって出来ている形。それぞれの動物の特徴を生かした、柔らかな形のピースの組み合わせ抑揚。動物たちがいる情景を色合いとして、生き物の温もりの共感が重要である。



雪見 / Snow Landscape  
半磁土、顔料 / Ceramics, pigments  
39 × 20 × 19 cm



# 鈴木 響

SUZUKI, Kyo

## 化粧の心理と現代における化粧の在り方

The psychology behind makeup — what effects does makeup have on our society today?



輝かんばかりに美しく / Gradual Beautification  
陶、アクリル樹脂、ミョウバン、ホウ砂、鏡、ガラス / Ceramics, acrylic resin, alum, borax, mirror, glass / 30 × 36 × 30 cm

外見を装うことは表面上だけではなく、実は内面にも影響を与える。

原石を磨くと、輝く宝石になる。また女性も自分を磨くことで光る宝石へと変わる。まだ整えていない初めの姿として原石、整えて完成された姿として化粧品をモチーフに、女性が綺麗になっていく様を陶やミョウバン、ホウ砂などの異素材を使って表現した。

最初は歪で黒い塊だったものが、やがて鮮やかな宝石へ、

そして洗練された形へと変化を遂げる。同様に女性も自分を磨くにつれて、自分らしさが輝き出すことを伝えたい。

化粧品は魔法の道具のようなものだ。綺麗になる工程を通して、前向きな気持ちが現れる。化粧をすることが楽しみとなり、更に自分を磨こうと明るい気持ちになる。そして、綺麗になったことで精神にも良い影響を与え、美しくなる。

化粧をすることで幸福度が増すと、精神の洗練と高揚をもたらしたものがより一層魅力的に見え、愛着が湧くのだ。



輝かんばかりに美しく / Gradual Beautification  
陶 / Ceramics / 30 × 36 × 30 cm



## 胡 瀟月

HU, Xiaoyue

### 情景システムにおける金属工芸

人間社会と動物社会の情景システムから見る創作表現

Situation systems in metalwork

Art of the situation systems in human society and animal society



家族の待つ家

A home where your family is waiting for you

銅、銀、鉄、七宝、ステンレス、金箔

Copper, silver, iron, enamel, stainless, gold leaf

15 × 50 × 15 cm

昔、父親からこう質問された。「家というのはなんだろう?」

私は考えもせずに「ここは私の家」と答えた。でも、父親は首を振ってこう言った。

「家族がいるところが、家になる」、と。

その時私はまだ子供で、その言葉の意味がよくわからなかったが、今振り返ってみれば、その真意を理解したような気がした。三年間の留学生活を送ってきた日々の中、一番私のことを支えてくれたのは家族だった。その感謝の気持ちを込めて、卒業制作を行った。

ところで、スズメなどの鳥が枝などに群れている情景はよ

く見かけると思う。本当の親子鳥とは限らないが、仲良さそうに群れる理由は、体温の維持や天敵から自らを守るなどと思われる。私の研究テーマ、「人間社会と動物社会の情景システムから見る創作表現」では、情景システムや生き物の社会性について論じているが、今回の卒業制作を通して、人間社会のみならず、動物社会にもこの考えを持ち込んでみた。動物も人間のように情景システムに影響されて、感情的に行動することができると想定し、家族と一緒になら、枯れ木でも家の温もりで花が咲くようなイメージで表現した作品である。





## 柳澤 清香

YANAGISAWA, Sayaka

### ネバーランドという観点から見た芸術表現の考察

中空を舞うシャーマンの思考

Consideration of artistic expression in terms of Neverland

The thought of shamans flying in the air



灯火の船 / The Lamplit Boat

鉄 / Iron / 120 × 120 × 210 cm

歴史の中でその神秘的な力から善であり悪でもある両義的な存在として位置する「鉄」を素材に作品を作り上げる。炎が吹き荒れる炉の中で鉄を熱し、機材や金槌を使って一打ち一打ち槌目をつける、繰り返される作業の中でそこに生命を吹き込むように、自らの魂を震わせる瞬間。それらの行為は異なる世界と現実とを繋いでいるひとつの儀式のように感じるのだ。

想像と現実の狭間、その中空に存在し、どちらでもありど

ちらでもない者。強大な力を持つが故に憧憬的であり、その反面畏怖の対象でもあった者。それは古来より存在するシャーマンの姿であり、現代に生きる我々アーティストの姿である。鉄を打つ槌目一つ一つが、物語を紡ぐ言葉の一語一語であるかのように、またあるいはシャーマンが儀式で打つ太鼓の音一つ一つと重なるかのように、それらは想像と現実が入り混じった狭間の世界への道標として、その場所へ人々を導く灯りなのである。





# 工芸専攻修士論文題目一覧

## 陶領域

安藤 優

狛犬と獅子像の分析と造形

佐藤 百合奈

陶による、動物のイメージを使った曲線表現について

鈴木 響

化粧の心理と現代における化粧の在り方

## 金属領域

胡 瀟月

情景システムにおける金属工芸—人間社会と動物社会の情景システムから見る創作表現

柳澤 清香

ネバーランドという観点から見た芸術表現の考察—中空を舞うシャーマンの思考